

(1) 旧市民球場跡地の活用方策（平成 25 年 3 月）

ア 球場跡地に導入することが望ましい機能

「文化芸術機能」と「緑地広場機能」を中心とする機能及びこれらを補完する機能とする。

イ 3つのエリア設定と機能の配置

次の3つのエリアを設定するとともに、それぞれのエリアに応じて機能を配置する。

(A) 緑地広場エリア

イベントもできる緑地の広場を確保し、天候等に左右されることなく市民や来訪者が集い、憩える空間となるように屋外活動用の施設を配置する。

(B) 文化芸術エリア

青少年センターの移転を念頭に、文化芸術を発信する施設を整備するとともに、その発信力の強化につながる生涯学習・教育機能や創作機能等の導入を検討する。

(C) 水辺エリア

基町環境護岸との連続性を保ちつつ、市民や来訪者が憩える「水の都ひろしま」を象徴する場として整備する。

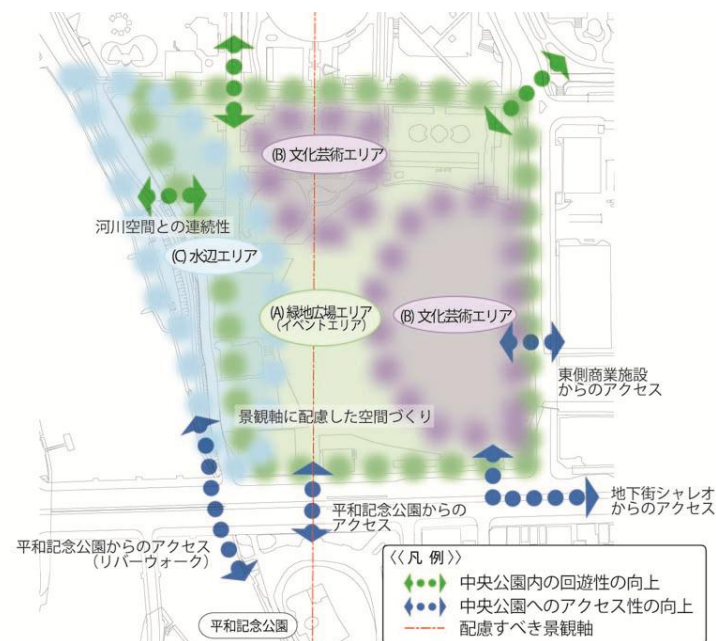
※ (B) (C) エリアについては、飲食物販施設や観光バス駐車場などの補完機能の配置にも配慮する。

ウ 機能の配置方法等

平和記念資料館本館下から原爆死没者慰霊碑及び原爆ドームを見通したときの景観軸に配慮するとともに、エリアごとに段階的かつ着実に進める。

文化芸術エリアについては、緑地広場エリアにおけるイベントなどのソフト開発を先行させ、その実績を踏まえた上で、段階的に整備を行う。

なお、民間施設については、現状に至る経緯等を踏まえつつ、移転に関する関係者の意向の確認等を行い、その配置等について所要の対応を的確に進める。



(2) 計画地の立地特性と課題

特性1 紙屋町・八丁堀地区に隣接

- ・ 中四国最大の商業業務地である紙屋町・八丁堀地区に隣接している。
- ・ 計画地では、年間を通じて、大規模イベントが開催されている。
- ・ 周辺には、会議施設、展示施設及び宿泊施設などがあり、各種会議を開催できるコンベンションゾーンが形成されている。
- ・ 広島バスセンターなどにも近く、広域からもアクセスしやすい。

《課題》

- ・ 紙屋町・八丁堀地区の活力の低下が懸念されており、計画地のポテンシャルを生かしたにぎわいの創出が求められている。
- ・ イベント会場としての高いポテンシャルを生かせるよう、イベントを開催しやすい環境整備を行う必要がある。
- ・ 計画地と東側の商業施設が、高架アクセス路や駐輪場で分断されており、連絡性も十分ではない。

特性2 中央公園に立地

- ・ 計画地は、戦後の復興のシンボルとして、また都心の緑豊かな空間として整備された中央公園の一角に立地している。
- ・ 計画地とその周辺には、本市を代表する文化施設が集積している。

《課題》

- ・ 集積した文化施設は、建物が老朽化するとともに機能面でも課題を抱えており、中長期的には建替や再配置を行う必要がある。

特性3 平和記念公園に隣接

- ・ 計画地南側には、国内外から多くの来訪者が訪れる平和記念公園がある。
- ・ 平和記念公園を設計した丹下健三氏は、同公園の軸線を中央公園にまで伸ばした構想案を発表しており、その軸線は中央公園の施設整備でも考慮されている。
- ・ 計画地の一部は、世界遺産の原爆ドームのバッファゾーンに含まれており、原爆死没者慰霊碑から見た原爆ドームの背景ともなっている。

《課題》

- ・ 計画地の活用により、多くの観光客が訪れる平和記念公園と計画地北東側にあるひろしま美術館や広島城をつなぎ、観光客の回遊性を向上させることが求められている。
- ・ 大型バス駐車場の不足により、計画地付近で交通渋滞が発生することがあり、計画地において大型バス駐車場の整備が求められている。
- ・ 計画地西側の民間施設の存在が、原爆死没者慰霊碑から原爆ドームを見た場合の景観に影響を与えている。

特性4 美しい水辺空間に隣接

- ・ 計画地西側には、魅力的な水辺資源である基町環境護岸や本川がある。

《課題》

- ・ 水辺空間が民間施設や市道等で分断されており、広島ならではの魅力的な水辺資源が十分に生かされていない。

